

タイルの可能性は、どこまでも広がる。

2018

Kasahara Café de Soleil

明治以降、ときに華麗に、ときに重厚に、ときにアートに、数々の名建築に美を刻んできた日本のタイル。現代では、焼き物の味わい、手づくりのよさを取り入れたタイルなど、新しい潮流を感じさせる表現が現れています。

多治見市笠原町にある「カフェ・ド・ソレイユ」は、モザイクタイルの産地にある総タイル張りのお店。床や壁面、厨房、テーブル、オープンテラスなどに、モザイクタイル約15万枚が敷き詰められています。花のカタチをあしらったタイル、色とりどりの六角形を散りばめたタイル、三角形を組み合わせて六角形を表したタイルなど、店内の表情はカラフル&ポップ。思わず心が弾む、軽やかな空間デザインが新鮮です。

タイル、
時空を超える
意匠。

このお店に隣接する「モザイクタイルミュージアム」は、膨大なタイルのコレクションを展開し、さまざまなタイルの情報を発信する博物館。世界的な建築家・藤森照信氏による、タイルの原料を掘り起こす「粘土山」を思わせる外観は、全国一のタイル生産量を誇るこの地のシンボルに。そこではタイルの歴史に目を見張り、新しいタイルの可能性を体感することができます。

